

第37回鳥取県小学校体育研究大会 (八頭郡大会)

大会主題

子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開
～豊かなかかわりと学びを大切にした体育学習～

隼小学校研究主題

ともに学び、自らの力を高めようとする子ども
～豊かなかかわりと学びを大切にした体育学習～

- 1 主 催 鳥取県小学校体育研究会
- 2 後 援 鳥取県教育委員会
八頭郡小学校教育研究会 八頭郡小学校長会
若桜町教育委員会 八頭町教育委員会 智頭町教育委員会
- 3 主 管 第37回鳥取県小学校体育研究大会（八頭郡大会）実行委員会
（隼小学校 八頭郡小学校教育研究会体育・特別活動研究部）
- 4 期 日 平成28年6月24日(金)
12:55～16:45 受付12:30
- 5 会 場 八頭町立隼小学校
〒680-0404 鳥取県八頭郡八頭町見槻中160番地
Tel 0858-72-0005

6 日 程

12:30 12:50 12:55 13:40 13:55 14:50 15:00 16:45

受付	移動	公開学習	移動	分科会 実践発表	移動	全体会
----	----	------	----	-------------	----	-----

7 公開学習

学年	領 域	単元名	指導者	場 所
1・2年	水遊び	「隼すいすいランドであそぼう！」	西尾美帆 田中智典 土井 款	町営 隼プール
3年	保健	「隼 けんこうちょうさ隊」 (毎日の生活と健康)	奥田友香	3年教室
4年	保健	「すてきなおとなになるために」 (育ちゆく体とわたし)	古田はるか	4年教室
5・6年	ボール運動	「キャッチ&アタックで決めろ！」 (ソフトバレーボール)	露木克久 橋本康恵	体育館

8 分科会

領 域	学 年	実 践 発 表 者	指 導 助 言 者	場 所
浮く・泳ぐ 運動	3・4 年	智頭町立智頭小学校 教諭 鈴木勇介	鳥取県教育委員会体育保健課 生田優介 指導主事	町営 隼プール 水泳会館
ボール 運動	5年	八頭町立郡家東小学校 教諭 小坂二郎	鳥取大学地域学部地域教育学科 関 耕二 准教授	体育館
保 健	6年	八頭町立丹比小学校 教諭 大坪絃司	若桜町教育委員会 岡崎浩一 参事兼指導主事	多目的 ホール

9 全体会 於:体育館

1	開会挨拶	鳥取県小学校体育研究会 会長 山本英世 八頭町立隼小学校長 田中 靖
2	研究の概要	八頭郡小学校体育・特別活動研究部 研究委員長 池井康二
3	全体指導・講評	鳥取大学地域学部 地域教育学科 関 耕二 准教授
4	講 演	演題 「うそのない稽古」 鳥取城北高等学校 校長 石浦外喜義 氏
5	閉会挨拶	鳥取県小学校体育研究会 副会長 森田明彦

研究主題 「子どもたちの主体的な活動をつくり、 確かな力を培う学習の展開」

～豊かななかかわりと学びを大切にした体育学習～

1 【研究の方向性】

「学校でなにが楽しい？」この質問の答えの上位にいつでも“体育の学習”が上がってくる。本来子どもたちは、体を動かし、友達と関わりあいながら活動することを好んでいるものである。しかし、今日、大人の商業主義および、ライフスタイルの影響によって、子どもたちの生活には運動とは対極的な位置にあるゲームやスマートフォンなどの多様なメディアが存在している。また、従来は子どもたちの自由な遊び場であった広場や空き地、公園といったスペースは、安全のために遊びの種類や使用の制限がされ、子どもたちよりも健康に気をつけている大人の姿のほうが多い。安全で便利で、豊かな生活といわれる現代は、子どもたちが運動をする環境としては、かなり厳しいといえるであろう。そして、実際に、子どもたちの日常的な運動量は、かなり減少をしている。そのような現代の厳しい環境においても、スポーツクラブ等に入って運動を日常的に行っている児童は、運動の機会と量を確保され、体力的にも向上を続けている。問題は、その様なスポーツクラブ等に参加していない子どもたちの運動機会である。先述の通り、メディア等の運動遊び以外の娯楽の増加、外遊びのできる場所の減少、実際に遊べる友達の減少などの影響をダイレクトに受けている。その結果、体力・運動能力の二極化がかなり深刻な状況である。毎年の、新体力テストの結果では、大きな学年になればなるほどその差は顕著になってきている。その様な今日的な課題の中で、今後体育の果たす役割はますます重要となってくる。とりわけ、体育における技能面や運動能力・体力面の向上とともに、運動をし続けたいと思える運動習慣化・日常化が今後の大きなテーマとなっていくと思われる。現行学習指導要領においても、「豊かなスポーツライフ」を目指す子どもたちが、主体的に「生涯にわたって運動に親しむための資質や能力」を育成することが体育学習の重要な目標にあげられている。今後体育の学習は、学校の中だけで完結するものではなく、常に人生という長いスパンによって系統性をとらえる必要がある。そこで、本研究部においては、体育の学習を通じて、生涯の運動習慣につながるような技能及び体力・運動能力の向上を目指すとともに自らの生活をより豊かなものとするために、運動習慣の獲得を目指していきたい。そこで、研究主題を「子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開」、副主題として「豊かななかかわりと学びを大切にした体育学習」としている。体育の学習が、今日の子どもたちを取り巻く課題に向けてどのように取り組んでいけるのかを考えていきたい。

2【主題設定の理由】

研究主題における『子どもたちの主体的な活動』とは、学習指導要領で重視される「生涯にわたって運動に親しむための資質や能力の基礎の育成」をめざす小学校体育において、運動の楽しさや喜び、健康的な生活の経験が、次なる運動及び心身の健康への学びの欲求となった姿であると考え。そのためには、体育の学習において、児童が各運動の特性を知り、友達と協力しながら練習を方法を工夫し、技能を身につけ、運動固有の楽しさを感じられる体育学習を展開していかなければならない。

『確かな力を培う』とは、小学校1年生から4年生の「各種の運動の基礎を培う時期」、5年生から中学校2年生にかけての「多くの領域の学習を経験する時期」を通じて、運動の系統化のもと、指導内容を明確にして、例示の習得を通じ、多様な運動経験、学びの経験、体力の向上が図られた姿および、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力の育成としてとらえる。

3【研究副主題について】

研究副主題における豊かなかかわりとは、運動とのかかわり、特に運動特性に触れ、習得する喜びを体験させたい。「できた！」この思いは、何歳になっても子どもたちの自信として、生涯の宝として、豊かなスポーツライフを実現する上で、支えとなっていくと思われる。また、仲間との学び合いにおけるかかわりは、協力すること、喜び合うこと、ともに安全に気をつけて運動していくことなど多様な価値を獲得することに繋がっていくと考える。本研究副主題における運動とのかかわり、仲間とのかかわりを通じて、「豊かなスポーツライフ」の創造に向けた体育学習をめざし、研究していく。

八頭郡では、従来から、運動とのかかわりとして、技の特性に目を向けた、動きや基礎感覚の系統性をもとにした系統表の作成、仲間とのかかわり合いとして、言語活動を通じた教え合い、学び合いを重視した取り組みを研究している。また、「豊かなスポーツライフ」の実現に向けて、体育学習の日常化においても研究を続けている。

4【研究の視点について】

【鳥取県小学校体育研究会の研究の視点を受けて】

鳥取県小学校体育研究会においては、勢いのある体育学習の基礎的条件として、「運動の学習時間の確保」、「学習規律の確立」、「指導者の肯定的な働きかけ」、「良い人間関係」などをあげ、その上に勢いのある体育学習の内容的条件として「学習内容の明確化」「系統性を踏まえた指導」「学習過程の工夫」「言語活動の工夫と充実」「教材、教具、場づくりの工夫」「教師の指導のあり方」などが整えば、相乗的に授業にプラスに作用するものと考えている。その考えの上で、研究の視点として次の5点を挙げている。

「学習内容の明確化」

「学習過程の工夫」

「効果的な指導」

「言語活動の充実」

「形式的授業評価やデータを生かした授業改善」

八頭郡小学校教育研究会体育・特別活動研究部では、研究主題「子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開～豊かななかかわりと学びを大切にした体育学習～」のもと、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を身につけさせる。」という小学校体育の目標の達成に向けたアプローチとして、近年研究を続けてきた器械運動領域における研究を生かしていきたいと考えている。器械運動領域の研究の中から学んだ「ああ！楽しかった。また新しいことに挑戦したいなあ。そして、もっとみんなと体育がしたいなあ。」という主体的な活動を通じて、豊かななかかわりと学びを大切にした体育学習を展開していきたい。そこで、器械運動領域において研究を続けてきた次の3つの視点を、他の領域にも広げ、今後の研究を進めていきたいと考える。

【八頭郡の視点】

（運動領域における考え方）

（1）身に付けさせたい力の系統性を意識した単元の流れの工夫

小学校低学年から小学校高学年の体育学習の中で、あるいは中学校も視野に入れ、どのような力（運動技能・学び方・仲間との関わり方）を身に付けさせていくことが必要なのかを考えていきたい。身に付けさせるべき力を明らかにし、八頭郡で大切にしてきた教師の適切な指導のもと、児童の主体的な活動をつくり、単元構成の工夫をすることで、児童は主体的に体育の学習に意欲を持って取り組めるものと考え。

（2）学習内容を明確化した学習展開の工夫

1 単位時間の学習における身に付けさせたい力が明確になることにより、どのようにしたら児童に身に付けさせたい力がつくのかを考えることができる。そして、児童は意欲的に学習活動に参加することで、確実な力の定着が図られると考える。

（3）子ども同士の学び合いの充実

さまざまな言語活動を通じて、ねらいを明確にした子ども同士の学び合いの場が多く設定されることにより、身につけさせたい運動技能・仲間との関わり・次なる運動への意欲が高められると考える。

（保健領域における考え方）

八頭郡では、「児童自ら健康や安全に対して疑問や好奇心をもつとともに、自分のこととしてとらえ、学習に対して主体的に取り組んでいく保健学習」を目指して、八頭郡の研究における3つの視点を保健領域においては次のように考えている。

（1）身につけさせたい力をもとにした指導内容の系統性を重視

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を身につけていくことを踏まえて、小学校

から高等学校までの 12 年間を見通した指導内容の整理及び関連を意識して、学習指導に当たる。

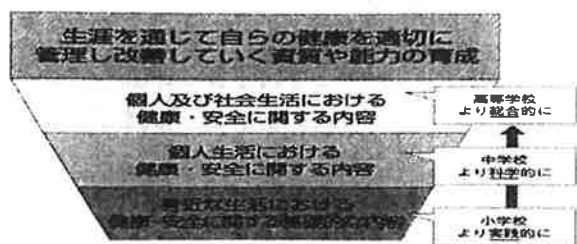


図 1-2 保健学習の体系イメージ

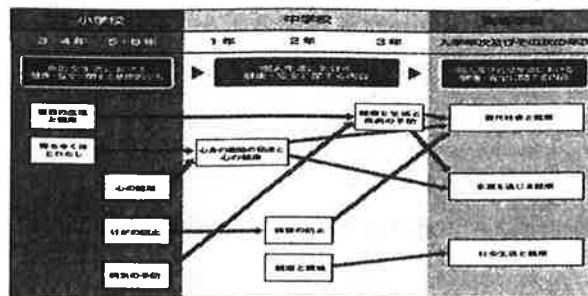


図 1-3 保健学習の内容の系統性

「生きる力」を育む小学校保健教育の手引きより

(2) 学習内容を明確化した学習展開の工夫

健康に関する興味・関心や課題解決の意欲を高め、知識を習得する学習活動を重視するとともに、習得した知識を活用する学習活動を積極的に行うことにより、思考力・判断力を育成していく。

- ・児童の主体的な学びを保障した学習過程の工夫
- ・より実感のともなった学習
- ・より実践的に理解できる「本当に○○だ」

(評価) 第 1・2 学年 運動領域において「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」

第 3～6 学年 保健領域において「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」

(3) 子ども同士の学び合いの充実

学びを言語化、協同化、共有化していくことにより、より実感して自分自身の生涯の健康なライフスタイルに向けたイメージ化が図られると考える。

- ・協働的な学習・主体的な学習（アクティブラーニング）
- ・ブレインストーミングを通じた意見の交流